

## 4. 外部評価委員による評価

## 外部評価委員による評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会が点検及び評価を実施するにあたり、教育に関し学識を有するものの知見の活用を図ることが定められ、今年度は下記の方々より、この報告書に対する評価をいただきました。

外部評価委員（敬称略・50音順）

末吉 かすみ 【河内長野市PTA連絡協議会 会長】

堂上 雅三 【四天王寺大学 教職教育推進センター教職支援員 教育学部教育学科准教授】

水谷 邦子 【東中学校区青少年健全育成会 相談役】

なお、今年度の評価については、「3. 教育、学びへの取り組みについて」に記載されている各重点目標の中でも、令和元年度において本市教育委員会で特に重点的な取り組みをした事業や、新たに実施した事業にあたる「最重点項目」が含まれる重点目標についてのみ、評価をいただいております。

<b>重点目標 1 確かな学力の定着</b>	(教育の現状掲載頁 P. 24)
<ul style="list-style-type: none"><li>・国語だけでなく、他教科においても問題を解くのみでなく、考え方・解き方を伝え合う表現力・判断力を育成する授業づくりを意識され、徹底されている。</li><li>・確かな学力の定着のための取り組みとして、「言語能力の育成の充実」「教員の授業力向上」「わかる授業、学び合う学習集団作りの推進」としているのは、新学習指導要領の実施から考えても適切であり、河内長野の教育として今後も継続して取り組む必要があると考える。</li><li>・国語力向上においては、新型コロナウイルス拡大の中、意欲の向上につながるイベント的な事業は縮小されたが、原点に戻り国語科を中心に授業研究（研究授業や伝え合える授業づくり等）に重点を置いたのも評価できる。</li><li>・令和2年度は、コロナ対応に明け暮れる一年であったが、ICT 機器（端末機タブレット）をどの自治体よりもいち早く配布し、学びの補償を確保した。教職員の活用技能習得も含め、今後の効果的な活用で新たな学力向上アイテムとしたい。また、端末機を学校においてどのように学習活動に活用しているのか、その使用方法と効果については、市内各学校で共有し、さらに広く市民にも発信していく必要がある。</li><li>・家庭学習の手引き等を作成・配布し、家庭学習の定着を図る取り組みを進めた学校が増加したとの内容について、具体的な実施校の数などの記載が欲しかった。コロナ禍によりさらに家庭学習の重要性が感じられる中で、できるならば全校においてそれぞれの学校の状況に応じた手引き等の作成と配布が望ましい。また年度末にその手引き等に対する家庭からの意見を聞き取ることにより、学校教育と家庭学習の連携、充実につながると思われる。</li><li>・LD（学習障害）児への不公平のない学力定着事業を望む。</li><li>・教職員研修事業について、多くの研修が用意され教職員の資質向上への成果が得られたと思われる。全ての教職員が年に1度以上の研修に参加しているのか等詳細な内容の記載が欲しかった。</li></ul>	
<b>重点目標 8 英語教育や ICT 環境等を活用した特色ある活動の充実</b>	(教育の現状掲載頁 P. 43)

- ・河内長野市は、英語教育については早くから NET を市費で雇用し、様々な取り組みを実施してきた功績は評価できる。
- ・小学校 6 年生の「モバイル英語村」、小学校 1・2 年生の「教育課程特例校による英語活動」、テレビ会議システムを活用した諸外国学校との交流、中学校 3 年生の英検公費受験などは、河内長野市の英語教育を重視する特色ある取り組みであり、さらなる推進を期待する。
- ・新学習指導要領実施により小学校 3・4 年生から外国語活動が導入された。さらに、河内長野市においては 1・2 年生から英語に触れる機会を導入している。また、英語村事業により広く英語に触れる機会を提供している。これは大いに評価できることである。ただ、今後、検証しておかなければならないことは、小学校において英語嫌いの児童ができていないか、小学校での英語学習が中学校でどのような効果があるのかである。常に検証しながら、改善を進めていく必要がある。
- ・英語教育について、「英語村事業」は評価できる。学校において実施されるだけでなく「あいつく」を使用した未就学児や低学年生を対象とした事業は、低年齢における語学教育の有効性からも評価できる。
- ・英検公費受験について英語教育推進事業として評価できる。ただ、受験率が低だけでなく受験生徒の割合が各校でのばらつきが多いとの記載があるが、時間帯・会場など周知不足以外の要素がないか調査・分析を行い、受験率向上へつなげて頂きたい。

#### 重点目標 10 歴史文化遺産の保存・継承と活用

(教育の現状掲載頁 P. 50)

- ・多くの歴史文化遺産は市民の共有の財産である。この財産を守るためにその維持継承は大変重要な課題である。様々な事業を実施し、予算も確保し、各事業や祭礼・伝統行事への補助金交付している点は評価したい。
- ・日本遺産の指定を受けた金剛寺や観心寺、高野街道などさらなる河内長野市の歴史的魅力や祭礼など伝統行事の魅力を発信することで、河内長野を広くアピールし、人口増加を期待したい。
- ・郷土歴史学習事業については、多くの小学校で郷土の歴史について学ぶことができた。それぞれの小学校校区には、多い少ないはあるが歴史文化遺産や伝統行事が存在する。子どもたちがその学習や体験することは、河内長野の将来を担う子どもたちに郷土愛を育むことになる。地域の自治会や伝統行事協議会、各施設と連携して体験的な郷土学習のさらなる推進をお願いしたい。
- ・子どもたちも参画できる「ぐるっとまちじゅう博物館」の継続を期待したい。地域の歴史を多くの人から学ぶと共に、子ども文化財解説で伝えることは郷土理解と郷土愛につながることを期待できる。
- ・河内長野の広範囲にある歴史文化遺産等に子どもたちには直にふれて欲しい。そこで南海バスが発行しているバス 1 日フリー乗車券「モックルカード」の活用を紹介する等の事業を期待したい。

#### 重点目標 15 子どもたちの放課後の育ちの保障

(教育の現状掲載頁 P. 68)

- ・放課後児童会については、各児童会コロナ渦においても工夫を凝らし、子どもたちの居場所を確保できたことは評価できる。今後も働く保護者が安心できる児童会運営をお願いしたい。
- ・放課後児童会の開所時間 1 時間延長や土曜日・夏休みの 30 分前倒し、1 月 4 日 5 日の開設など保護者の要望に応え、信頼できる児童会運営が行われている。今後も保護者の労働が保障できるような体制整備を積極的に取り組んでいただきたい。
- ・放課後子ども教室事業については、コロナウイルス蔓延により計画通り実施できなかったのは、残念である。現在、地域の方々の協力で開催しているが、スタッフとして教職を目指す大学生や高校生の協力を得る体制整備をしてはどうか。
- ・コロナ禍での事業の推進は大変な事だったと推察できる。その中で放課後児童会入会者への対応について評価できる。学校施設にて児童会開始までの預かり事業の実施は多くの保護者が安堵したことだろう。

・放課後子ども教室事業や駅前子ども教室事業について、将来的には拡充を期待したい。放課後子ども教室は学年を広げたり、駅前子ども教室は千代田駅前・三日市町駅前でも開催され、さらに多くの子どもたちが地域ボランティア・団体と交流を深めて欲しい。

**重点目標 1 8 安全・安心な学校施設の維持・充実**

(教育の現状掲載頁 P.77)

・児童生徒や保護者が安心できる施設としての学校を改善・維持していくことは必然である。さらに、大型台風の発生や大雨による特別警戒情報発令、大地震の発生も予想されることから、避難所として指定されている学校の活用は避けられない。地域の方や高齢者の活用も考えると、早急の学校の非構造部材耐震対策工事・トイレの洋式化・乾式化整備、老朽改修が急がれる。

・学校運営管理事業については、教育大付属池田小学校の事件から児童生徒の命の安全を守る事業として管理敬体を変えながらも継続されてきている。今後もぜひ継続を維持すべきである。

・小学校施設設備改善事業について、コロナ禍で年度内の工事ができず令和3年度に持ち越されたが、今後も休業期間の変更など突発的な事態も予測される。事業推進のために無理な工事日程にならないが不安を感じるが、当然子どもたちの安全を第一に実施されているかに注視して欲しい。

・トイレの洋式化・乾式化整備については衛生環境の充実のためにも、特に早急な実施を期待する。

**重点目標 1 9 学校教育を支える教育環境の維持・充実**

(教育の現状掲載頁 P.80)

・令和2年度の評価が、妥当性B, 効率性B, 有効性Bであるが、項目によってはA評価を付けても良い。コロナ禍の中、児童生徒の学力向上、授業の保障等の確保のため、一人1台のPC整備を急ぎ、10月には完了したこと、そしてPC活用のための周辺機器環境整備は、迅速な対応で素晴らしい。十分評価される事項である。学校の授業での積極的な活用や持ち帰り学習の練習等有効に活用された。さらなる活用法の模索が必要である。

・学校図書館図書標準は、令和2年度整備状況はすべての学校でその達成率は100%を超えた。読書環境は整ったと言える。あとは読書意欲の向上をいかに促すかが課題である。学校図書蔵書管理システムの導入により、児童の読書に対する意欲の向上と自主的な読書活動の推進が期待される。

・児童生徒1人1台のPC整備が進められ令和2年10月に完了したとの記載があるが、教室やPCルームに常備されているPCを含めた計上であることから、児童生徒全員がスムーズに同時に持ち帰り学習ができる環境になく課題がある。

・コロナ禍の中では、タブレット等を常時あるいは休日前等に持ち帰り、休校等の際の素早い対応を期待したい。そのためにも日ごろからの使用が必要と思われる。

**重点目標 2 2 スポーツ施設の充実と生涯スポーツ活動の推進**

(教育の現状掲載頁 P.92)

・河内長野シティマラソン令和3年度実施に向けて、コロナ感染対策やコース変更など考慮した準備が進められ、実施が可能となったことは評価できる。

・令和2年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、様々なスポーツ大会が中止になった。また、総合体育館等スポーツ施設も閉鎖となり、スポーツや体力維持への意欲が低下した。今後、コロナ禍の中でも感染対策を十分考慮し、実施・開館の方向を模索していただきたい。

・スポーツ普及啓発事業に関しては、特にコロナ禍の中での中止が目立つが、これはいた仕方のないことである。その中でもいくつかの事業の実施や学校での事業が実施されたことは評価できる。

・スポーツ施設の一時臨時休館・休場が行われても利用者数から多くの市民が利用していると思われたが、スポーツ人口自体は減少しているとの記載が印象的であった。また施設運営を指定管理者が担当することは、現在の社会情勢では市職員との連携が特に重要である。それぞれ研修はできるだけ共同で行い、人間関係の構築も図って欲しい。

**重点目標 2 3 社会教育の推進**

(教育の現状掲載頁 P. 99)

- ・公民館の運営については、各公民館で創意工夫を凝らし、地域や夏休みの子供対象の事業を地域のニーズに応じ実施計画を立て実施している。夏休みの子供対象の事業は参加数も多く好評であると聞いている。ただ、コロナウイルス感染防止のため令和2年度は十分な活動をできたとはいいがたい。今後、コロナ禍の中でも感染対策を十分考慮し、実施できる方法を考えてもらいたい。
- ・会館の老朽化は否めない。先行モデルとして実施されつつある加賀田小学校と加賀田公民館の複合化をしっかりと検証し、学校と公民館の複合化を進めていく方向も検討していく価値はある。それぞれの地域の拠点である小学校と公民館の複合化は、地域の活性化や学校の地域連携に向けての様々な取り組みが期待される。児童の減少しつつある学校教育の活性化にもつながる。
- ・公民館が地域活動の中核施設として位置づけされる中では、地域住民の交流や学習できる場の提供だけでなく地域の中で市民や団体と協働しながらリーダーシップをとって欲しい。その面からも学校と公民館の複合化については非常に期待できる。
- ・「地域コミュニティ、安全・安心などの分野を重点課題」とするとあるが、講座開催だけでは不足ではないだろうか。具体的な活動を期待したい。また避難所としての役割もあると思うのでそれらにも少し触れて欲しい。

**重点目標 2 4 子どもたちや市民の読書活動の推進**

(教育の現状掲載頁 P. 103)

- ・図書館の様々な読書振興事業や図書館内サービス事業は、様々な方への読書推進の大きな一端を担った事業で高く評価されるものである。特に障害のある方や高齢者、幼児を持つ保護者にも優しいサービス事業は特に評価の高い取り組みと考える。多種多様な市民のニーズに応えた図書館運営を期待する。
- ・読書離れ、活字離れが問題となっている昨今、学校教育活動の中で読書を推進することは大切なことである。教職員が意識を高く持ち、学校全体で読書活動に取り組むことが大切である。読書週間の設定や朝読書の実施、読書ノートを活用など、積極的な仕掛けを期待したい。また、言語力向上司書職員の配置は、児童生徒の読書習慣や読書の推進に大きく寄与すると考えます。専門の知識、企画力を持った図書館司書の全学校への配置は、教員との連携により読書活動が促進され、国語力の向上と児童生徒の豊かな心の育成に繋がります。この配置は良い評価を得るものです。
- ・幼児期から図書に親しむための事業を展開されていることは評価できる。場所も図書館・あいつく・公民館などが用意され参加しやすいと思われる。
- ・図書館では認知症カフェへの支援や音訳、対面朗読、さわる絵本制作など多くの市民との協働が印象的である。それらの実績は情報不足となりがちな多様な市民への情報提供の機会になると期待できる。
- ・学校における読書活動推進については、特に低学年への重点的な実施が望ましい。「朝の読書」「読書ノート」の活用などにより読書習慣を身に付けやすいと期待できる。

**重点目標 2 5 図書館や公民館図書室の充実**

(教育の現状掲載頁 P. 109)

- ・近くにある公民館図書室は、高齢者にとって利用しやすい場所であり、生活の一部にもなりうる。充実した時間を過ごす場所にもなっている。また、児童にとっては読書・学習の場であり遊び場でもある存在となっている。さらに犯罪から児童を守る駆け込み寺ともなっている。ただ単に読書の促進だけでなく、様々な機能を備えている。さらに図書内容を充実させ魅力ある公民館図書室であるべきである。
- ・図書館においては、いわゆる紙媒体の図書の本だけでなく、様々な電子媒体の情報も用意され、その取り組みが行われているのがわかります。電子図書館サービスを導入し、読書バリアフリーに対応した電子書籍も購入するなど、すべての人に対応した誰にでも利用できる図書館運営は素晴らしい。

- ・コロナ禍の中での様々な形での事業の実施が印象的である。また紙媒体が主流である図書館でも電子媒体への対応が求められていたが、コロナ禍により急速な対応が必要とされたことと推測できる。また実際に手に取る図書であるための感染症対策には今後も注意していただきたい。
- ・コロナ収束後は「リサイクル本を活用した市内公共施設等への文庫設置」をぜひ実施していただきたい。いろいろな場所に図書が置かれている地域を期待している。